

有限会社オйкаワデニム



代表取締役社長
及川 秀子 氏

◆企業の概要

企業名：有限会社オйкаワデニム
代表者：代表取締役社長 及川 秀子
住所：気仙沼市本吉町蔵内83-1
設立年：昭和56年
業種：デニム衣類企画・製造・販売
資本金：5百万円
従業員数：23名

◆事業の概要

当社オリジナルブランドである「STUDIO ZERO」や、世界的ジーンズブランドのOEM（納入先商標による受託製造）でデニム製品を製造・販売し、国内外において高い評価を得ている。元々、当社はデニム製造において強度の強い麻糸による世界唯一の加工縫製技術を保持し、さらに一般衣料には無い製品保証システムをサービスに採用するなど独創性のある事業を展開してきた。

東日本大震災後、気仙沼の地域資源の有効活用を目指し、繊維業界初の「カジキマゴ^{ぶん}の角（吻）から作る生地」の開発と事業化を目指している。



本社・工場

地域の資源である「カジキマグロの角（吻）^{ぶん}を活用し生地を作る」という水産業の6次産業化モデルを実践



STUDIO ZERO



作業風景



角（吻）



カジキマグロ



生地製作風景

◆受賞の理由

気仙沼はカジキマグロの水揚げ日本一の港であるが、従来その角（吻）は水揚げ時に船上で切り離し廃棄していた。震災後、地元気仙沼漁協の全面協力のもとそれを地域資源として活用することで、震災前は交流のあまり無かった漁業者との連携を図り、地域産業である水産業の振興と雇用促進に繋がることを期待して新しい生地の開発・事業化を目指している。

従来の生地素材として、植物などの自然繊維や人工的に生み出す化学繊維、陸上の動物羊毛繊維などがあるが、水生動物を用いる取り組みは繊維業界初である。現在、東経連ビジネスセンターの支援、宮城大学や宮城県産業技術総合センターの協力のもと、新素材の研究を進めているが、これまで廃棄処分されていた資源を活用した動物性の糸や繊維加工する製造技術を確立することにより、既存の汎用素材には無い新しい機能（生体親和性、防臭性、抗菌性、難燃性など）を付与することが可能になると期待されている。

将来的には、海外輸入品に押されている繊維製品に対してシェア拡大への切り札となりうる新製品であり、当社は自社だけに留めることなく新素材を地元の企業に製造を依頼することも考えており、販売や流通においても新しい可能性を秘めている。

今回の新たなビジネスモデルは水産業の6次産業化であり、水産資源の活用と異業種との連携により新たなビジネスと雇用の創出を目指したパイオニアとして高く評価される。

当社は、気仙沼で国内生産にこだわり、世界の一流企業に認められた縫製技術のもと、独創性あるアイデアで気仙沼の水産業からもたらされる地域資源を活用した新しい地域ブランドの創出を目指している。国内のみならず海外も視野に入れた販路拡大を図るなど、一層の飛躍が期待できる企業である。